



2006年11月19日(日)鎌倉、天園ハイキングコースを歩きました。天候は、雨。そのためか、参加したのは、佐藤忠夫さんと町田行弘の2名だけ。ということで、気ままなふたり旅となりました。

鎌倉の紅葉を期待していたのですが、まだ早く、しかも雨。予定のコースをショートカットして、建長寺と円覚寺をじっくり散策しました。

ハイキングコースを歩いていても、街を歩いていても、様々な鎌倉時代の名所・旧跡に出くわすのですが、それがどのような意味を持って存在しているのかわからない(知らな過ぎる、あるいは忘れてしまった)ことがとても残念に思われました。建長寺も円覚寺も立派な大きなお寺にしか見えず、拝観料を払って中を歩いても同じこと。本当は、事前に調べておくべきでしょうが...

こう考えると“大人の遠足”は、子供の頃の遠足よりも奥が深いなあ。



桜井さん、どうしたの？

小田急線町田駅にやって来たのは、佐藤さんだけでした。加藤さんと向山さんは、参加すると言っていたそうですが...、雨だからやめたようです。小野さんは、7月の鎌倉の心の後遺症ということで不参加です。横山さんは、マラソン大会かな？それより問題は、桜井さんなのです。数日前、息子の秀樹さんからメールが届き、体調を崩し入院中というのです。しかも、今後、ハイキングに参加することは不可能ですが、案内と報告は頂きたいというのです。いったい、どうしたのでしょうか？ふつう、よくなったらまた参加しますとなりそうですが、心配です。

25 キロ 6 時間！今回は...

「じゃあ行きましょうか」小田急線に乗り、藤沢でJRに乗り換えて鎌倉へ。

鎌倉駅で“大塔宮（鎌倉宮）”行きのバスに乗り終点で降ります。この日の予定は、鎌倉宮 瑞泉寺 峠の茶屋 獅子舞と歩き、一度鎌倉宮に戻り、覚円寺 鷲峰山 十王岩 建長寺 北鎌倉駅です。寒い雨の中、低い山とはいえ登って下りてまた登るのはどうかな...？この時すでにコース変更の気配が頭の中を漂います。

鎌倉宮に来たのは、2 度目なのですが前回の記憶がありません。1997 年 7 月「鎌倉ウォーク」で通過しました。その時は、雨の中、江ノ島 鎌倉山 裏大仏ハイキングコース 建長寺 鷲峰山 大平山 獅子舞 鎌倉宮 鶴岡八幡宮 鎌倉駅と約 25 キロを 6 時間かけて歩いたのでした。

獅子舞方面との分岐を瑞泉寺に向かって細い道を進みます。そして瑞泉寺の入口手前を右折するとすぐに天園ハイキングコースの狭い登り口がありました。細い急坂の山道です。ここから



峠の茶屋までのハイキングコースは、町田も初めて歩きますが、静かで人の往来を感じないコースに思われます。すぐに、緩やかな心地よい上り道になりますが、単調というか刺激のない公園の中の散歩道のような雰囲気です。間もなく小雨が降り始めました。

おでんとぬる燗

20 分ほど歩くと突然景色が変わりました。目の前に苔生す岩場の急坂が現れました。右頭上に“貝吹地蔵”の石碑があり、上って中を覗くと上半身だけのお地蔵様が一体あります。鎌倉の幕末、新田義貞の軍に攻められて自害した北条高時の首を守りながら敗走する兵士を助けるために、貝を吹き鳴らして誘導したという伝説の石仏ということ。急な岩場を直進するのかと思ったら、ちゃんと右手に安全な回り道が用意されていました。



急坂を登りきると道は再び緩やかに。10 分ほどで建長寺へ向かう道と獅子舞を経て鎌倉宮へ戻る道の分岐がありました。そして、建長寺方面の先に峠の茶屋の看板が見えています。「とりあえず茶屋で一休みすることにしましょう」時刻は 11 時、昼食にはちょっと早いのでおでんとぬる燗を注文しました。ここがいわゆる“天園”。





天園というのは、元師海軍大将東郷平八郎がつけた呼び名で、もともとは“六国峠”といわれていました。晴れていればここからの眺めは素晴らしく、武蔵・相模・上総・下総・伊豆・駿河の六国が見渡せるからです。

茶屋の主人に「獅子舞の紅葉はどうですか？」と尋ねると「まだまだ、2週間早い」日本酒が入ったことだし、紅葉していない獅子舞に行く必要がありません。獅子舞と見て、鎌倉宮に戻ったら、雨の中再びハイキングコースに侵入することができるか不安です。酒を飲んだ



ふたり旅では。このまま建長寺へ抜けて北鎌倉に行くとするとお昼過ぎには駅に着いてしまいそうです。

茶屋の主人に「ここから建長寺へ抜ける他のハイキングコースはありませんか？」と尋ねると、自分の庭のようにいろいろ教えてくれるのですが、建長寺へ向かうメインコース以外の枝道はどれも道が複雑で迷いそうなのです。さすが鎌倉、今でも外敵(?)は侵入しにくくなっているようです。あきらめて建長寺へ向かうことにしました。

墓穴で食事？

茶屋を出て歩き出すと右側はゴルフ場で、しばらく行くと茶色い粘土質の岩が持ち上がっているところがあり、その頂きが大



平山です。これが山？子供の遊びのお山の大將の山みたいな山です。このあたりまでくると、こんな日でもハイカーとすれ違うようになります。やはりメインコースは安全確実のようです。道は徐々に下っていてやがて覚円寺を経て鎌倉宮への分岐が現れました。直進して建長寺を目指します。

このあたりから右側の山肌を掘った穴が目につくようになります。中に石仏やお墓らしきものがあったりします。これは、“やぐら”と呼ばれる中世の墳墓で、平地が少ない鎌倉では、武士や僧侶などの上流階級の人を葬るのに利用されていたそうです。貝吹地蔵に助けられながら敗走した兵士は、いくつかあるやぐらに北条高時の首を葬ったということですが…。そうとは知らぬ町田は、“そろそろ昼食もっと大きな洞穴があったらなあ”なんて思っていました。



時刻は、そろそろ13時になるようとしています。11時のおでんはぬる爛にとろけてしまいました。“どうしようかな？”このあたりですれ違うのは、ハイカーではなく観光客。それもカップルが多く女性はブーツにスカートだったり。建長寺から来たのでしょうかどこまで行くのでしょうか？と、建長寺の入口の柵があり、その横に展望テラスが現れました。展望テラスにはベンチがあり、木々に覆われているので雨をしのげます。「ここで昼食にしましょう」

見下ろすと建長寺。こんな場所があったんだ。佐藤さんも町田も鎌倉駅で買ったおにぎりを食べていると建長寺から次々に観光客が傘をさしてやってきます。やはり若いカップルが多いのですが、外国人もちらほら。展望テラスからの眺めをしばし楽しみ、記念撮影をしたりして、ちょっとあたりをうろついて戻っていきます。





観光客に変身

食事を終えて、建長寺の敷地へ入るとすぐに石段が続きます。なるほど、これなら不思議はありません。どんな格好の観光客もハイキングコースへやってくることができるわけです。ハイキングにやってきた私たちは、ここで目的が達成されてしまったことに気づき、気持ちを切り替えます。ここからは、さっきまで場違いに見えた鎌倉の観光客として歩き出すのです。階段を下ってまず現れたのは“半僧坊”でした。半僧坊は、半分が僧侶で半分が俗人の姿の半僧坊大権現のことで、天狗の姿をしています。天狗とは、山の妖怪なのですが、日本においては“山伏”のイメージと結びつき、やがて“山の神の化身”となりました。山の神 天狗 山伏ということで、半僧坊は天狗なのかもしれません。



階段を下りきるとまさに建長寺です。“通るだけでも拝観料はかかるので、しっかり見学をしていきたい”とガイドブックにあります。そういえば、十数年前（スポーツショップに勤めていた頃）あるスポーツメーカーと「山を走ろう」という企画でここを通過した際、呼び止められて拝観料を納めた記憶があります。せっかくなので、建長寺の建物の中など見学し、ドキドキしながら総門を通過したのですが、呼び止められませんでした。山から来たハイカーではなく、総門から入った観光客になりきったようです。



時刻は13時45分、帰るにはちょっと早いしせっかくなので“円覚寺”も見学することにしました。円覚寺も建長寺に負けず劣らず立派な大きなお寺です。そして、どちらも栄西による臨済宗の禅寺です。鎌倉時代に禅宗は隆盛を極め、幕府は次々に大寺院を建立し、中国の五山制度にならい五大官寺を設定しました。これが鎌倉五山で、第一位が建長寺、第二位が円覚寺で以下寿福寺、浄智寺、浄妙寺と続きます。それにしても、大きなお寺は素晴らしい散歩道です。流して歩くだけでも小一時間かかってしまいました。

ハイカー 観光客となりきって北鎌倉駅から帰路に就きました。





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
佐藤忠夫	192-0364	東京都八王子市南大沢 2-12-3 0426-76-6246

